# ワークショップ型研修　②
## ～概念化シートによる実態把握編～

※本研修の意図や留意すべきことをポイント①～④として示しています。

## 1　目　的

・研究の開始期において、児童の実態を把握し、研究の目指す姿・研究テーマを全員で共有するために、職員一人一人が互いの意見を積極的に出し合う場を設定し、校内研修への参画意識を高める。【ポイント①】

## 2　日　時

平成〇〇年〇〇月〇〇日（〇）　時間　〇〇：〇〇～〇〇：〇〇（４５分間）

## 3　準備物

・模造紙（表を書いたもの）、付箋紙（赤と青 75㎜×75㎜）、水性黒マジックペン（人数分）、マジック（赤・青・緑等５色程度）、黒板、マグネット

## 4　研修の進め方（例）

・テーマ　例）：　＜〇〇において、子どもに身に付けさせたい力とは何か。【ポイント②】＞

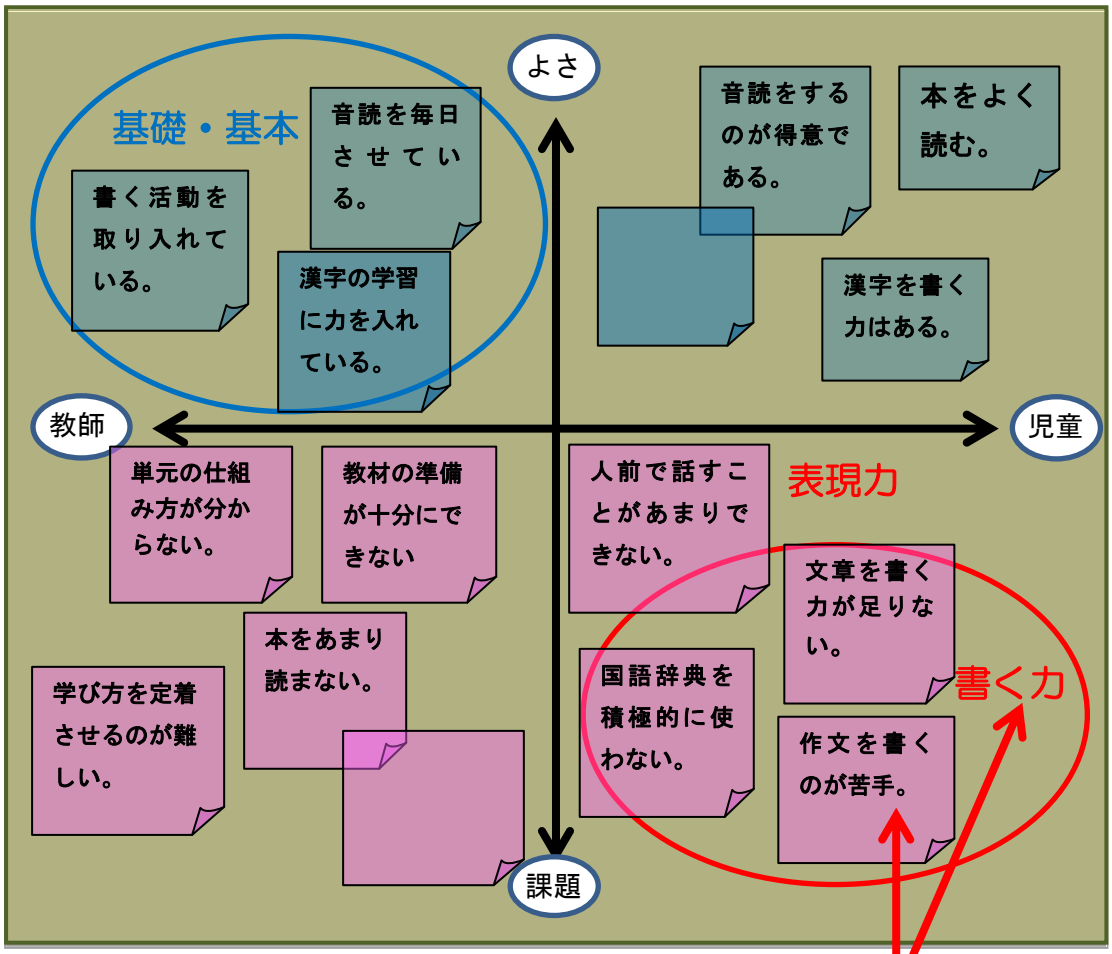
| 時間（45分） | 内　　容 | 留　意　点 |
|---|---|---|
| （３分）<br>（７分） | **１　演習の目的や進め方について説明を聞く。**<br>**２　研究する教科についての児童・教師それぞれのよさと課題を付箋紙に書く。** | **【研究主任】目的や進め方を簡潔に説明**<br>〇　進め方については手順を示したものを掲示する。（プレゼン等★）<br>〇　できる限りたくさんのことが書けるように簡潔に（箇条書きで）書く。<br>・よさは青、課題は赤の付箋紙に書く。<br>・１枚の付箋紙に一つのことを書く。<br>・見やすいように水性黒マジックペンを使用する。 |
| （10 分） | **３　概念化シートに付箋紙を貼っていく。** | 〇　まず、よさから、一人ずつ考えを述べながら付箋紙を貼る。その際、似たような意見は、その都度つけ加える。 |
| （10 分） | **４　構造化する。【ポイント③】** | 〇　似た内容ごとに小見出しを付ける。線でつないだり、囲んだりして関連させることで内容を整理・分析する。 |
| （10 分） | **５　各グループからの発表をする。**<br>**（3 分間：時間厳守）** | **【研究主任】各グループを回りながら進行状況を把握し、声かけをする。**<br>〇　発表者、計時、成果物持ち等、各グループで役割分担をして行う。<br>〇　他のグループの発表を聞き合い、全体で考えを共有する。 |
| （５分） | **６　各グループで作り上げた概念化シートをもとに全体でのまとめを行う。**<br><br>**（最後は管理職からの指導助言）** | **【研究主任】今後の方向付けをしてまとめる。**<br>（学校の実態としてのよさを強みとしながら、課題として挙がったことを、校内研究のテーマにつなげていくことを伝える。）【ポイント④】<br><br> |

【ポイント①】　教職員が積極的に互いの意見を出し合うことが一番の目的なので、意見を出しやすいワークショップを考えることが大切である。

視覚化
共有化

【ポイント②】　研究する内容についてのよさ（青い付箋）と課題点（赤い付箋）は何かはっきりさせ、学校の実態としてのよさや強みを特色としながら、出された課題を研究テーマにつなげるようにする。

**【概念化シート】**




【ポイント③】
出された付箋紙を整理し、マジックなどを使い、枠で囲んだり、文字を書いたりして構造化していく。それぞれの気付きを関連付けていくことで**研究の方向性**を探っていく。

【ポイント④】
どのような力を付けていきたいのか焦点を絞るために**「良いところ」と「課題」、「教師」と「子ども」という２軸**で四つのエリアに分ける。整理分析する中で、課題として挙げられた項目を中心に研究テーマや内容につなげる。

**★研修のねらいや進め方がわかるプレゼンテーションのデータが有りますので、ご活用ください。**
**（学校の実態に応じて時間設定や内容が編集できます。）**